

学園だより

太白山

(令和6年度 第1号)

宮城県さわらび学園

〒982-0215

仙台市太白区旗立二丁目4番1号

TEL : 022-245-0333

FAX : 022-245-0515

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sawarabi/>

学園ホームページもご覧ください

新年度ごあいさつ

園長 田中 佳二

本年4月より園長を拝命いたしました。配属9年目となり、これまでも学園の中には居りましたが、あらためて「子どもが安心して、安全に生活し、人との関わりの中で“自分の居場所だ”と実感できる施設」を目指していきたいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。

さて、このさわらび学園は、仙台市の西側、「太白山」という三角山の麓にあります。(この山の名前が、広報誌の名前の由来でもあります。)近年、園内にイノシシが出没し、グラウンドや作業で使う畑などを掘り返してしまうこともしばしばありました。地域の猟友会の皆様の協力を得てワナを仕掛けたところ、昨年度には19頭のイノシシを捕獲。そして、寮舎の屋根裏からはハクビシン、たびたび園内を鹿が闊歩していることもあります。そんな自然が作り出す雰囲気、例えば、風の音、木陰の光、季節毎に咲く花々、刈っても刈っても伸びてくる草達など、深呼吸が気持ちの良い場所でもあります。子ども達が求めていることは、自分を見つめてくれる大人や仲間が存在。これまでの育ちの中でたくさんの逆境を乗り越えてきた子ども達にとって、「ここが自分の分岐点となった場所」と言ってもらえる関係作り、居場所作りができればと思っています。



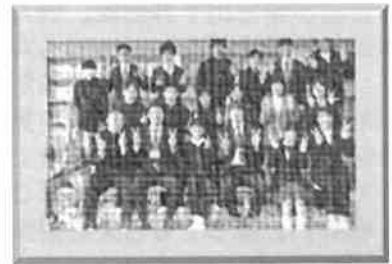
5月20日 朝礼でのお話 亀山耕平選手の話から学んだ「言葉の力」

旗立分教室 教頭 阿部 博朗

体操世界選手権あん馬で世界チャンピオンになった亀山耕平選手という人がいます。4月に亀山選手のお話を聞かせていただく機会に恵まれました。お話の一部を紹介します。

◆
亀山選手は3歳から33歳まで競技を続けました。しかし、その競技人生は失敗と挫折が多かったとのことです。「オリンピック選手になる」「金メダルを取る」という目標を持って練習を続けましたが、周りからは「お前が金メダル取れるはずがない」「オリンピックに出られるはずがない」と笑われたり馬鹿にされたりしたそうです。そうしているとだんだん自信がなくなり、リオオリンピックの予選会では「みんなが言うとおりに、ダメかもしれない…」という気持ちで競技に臨んでしまいました。結果は、信じられないミスをしてしまい、リオオリンピック出場は叶いませんでした。落ち込んでいた亀山選手の前に、チームの新しい監督として亀山さんが尊敬する体操選手だった米田さんという人が来ました。米田監督は亀山選手の練習を見てこう言ったそうです。「亀、おまえの練習は最悪や」。亀山選手は「やっぱりダメなのか…」と思ったそうです。しかし、米田監督は言葉を続けました。「亀、おまえの練習は最悪や。でもな、あん馬だけなら日本一、いや世界一取れるで！なあ亀、やれるで！」こんな言葉を今まで言われたことがなかった亀山選手は、その後、あん馬の練習にひたすら励んだそうです。また、普段の練習から本番を意識して練習に取り組んだそうです。さらに行ったことがもう一つあります。試合や練習の前に「できる、絶対できる！」という言葉で5分間自分自身に言い続けたそうです。そうして東京オリンピックの代表選手にも選ばれました。現在、現役を引退した亀山選手は、自分の経験をもとに体操競技の楽しさや、言葉の力の大切さを子どもたちに広める活動を行っているそうです。

◆
亀山さんのお話を聞いて、「言葉の力ってすごいな」と思いました。マイナス言葉はマイナスの方向に、プラスの言葉はプラスの方向に伝わっていきます。この話を聞いた日以降、私が続けていることがあります。毎朝の日課で散歩をしているのですが、「穏やかにします、(心を)広くします」と自分に向けてプラス言葉を(ブツブツと)唱えながら歩いています。最近、どんな人にも穏やかに、広い心で接することができるようになってきた気がします。分教室のみんなも言葉の力を意識して友だちと関わってみたり、プラス言葉を自分に言い続けてみるときっと新しい世界や大きな成長がやってくると思います。



子どものメッセージを受け止めること

心理療法担当職員 佐藤 啓直

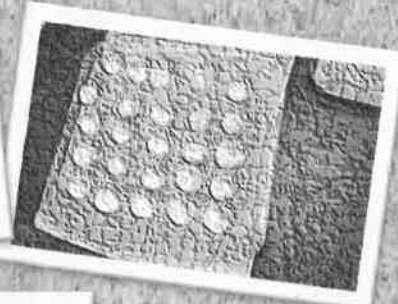
子どもたちは、自分を理解してもらおうと日々発信しています。「くそ」「うざい」「死ね」、そんな表現しか持ち合わせていない子どももいます。暴れたり引きこもったりする子ども、腹痛や頭痛を訴える子どももいます。もちろん望ましくない言動は注意する必要があります。ただし、学園にはうまく伝えられず、理解されずに苦しい思いを重ねてきた子どもが多くいます。「こういう気持ちだったのかな」「本当はこう言いたかったのかな」「あの嫌なことを思い出したのかな」……完璧な通訳にはなれませんが、子どもの言葉にならないメッセージを言葉に紡ぐこと、それが心理職としての大きな役割だと考えています。

☆春の学園行事☆

❀ お花見 ❀

4月7日、桜はまだ5分咲き程度ではありましたが、園内でお花見をしました！

午前に各寮で職員と共に団子を作り、午後に各寮で作った団子を持ち寄って一か所に集まり、それを食べながら季節を感じていました。春の訪れを肌で感じる事ができた一日だったと思います。



❀ 春の運動会 ❀



【児童の作文紹介】（一部抜粋）
広瀬寮児童 Y. S

あんぱんをおいしくいただきました。疲れもあったのか美味しかったです。春の運動会、結構楽しかったです。パン食い競争みたいに噛む力と玉入れのシュートや力を身に着けたいと思いました。

4月23日、転入及び新任職員との交流を図るために運動会を実施しました！！

2チームに分かれて綱引き、玉入れ、借り物競争をした後、個人戦でパン食い競争を行いました。今回は交流がメインなので勝敗は決めないことにしました。勝敗にこだわる児童もいましたが、最終的には切り替えて全員が最後まで参加することができていました。なお、パン食い競争で獲得したアンパンはおやつとして競技後にみんなで食べました。

登山

5月5日、泉ヶ岳という山に登りました！山頂まで全員の体力が持つのか心配でしたが、無事に到着しました。児童たちは大自然の中で自然の陰しさを身に染みて理解したことと思います。下りの際、走っていたため転んで小さなケガをした児童もいましたが、そのことを後日当日参加していなかった職員に笑って報告していました。



広瀬寮の様子

広瀬寮長 見立屋 航希

今年度の広瀬寮について紹介します。入所児童は6名で、内訳は中学1年生1名、中学2年生4名、中学3年生1名です。職員は、昨年度から男性職員が1名入れ替わりしました。

大きな入れ替わりがなくスタートした令和6年度ですが、どの児童も野球大会へのモチベーションが高く、一生懸命練習に励んでいます。児童間の人間関係の中でのトラブルは絶えませんが、寮の雰囲気良くしていこうとする意識が徐々に高まっており、良い雰囲気でも過ごせる時間が増えてきています。

今年度も子どもたちと話し合い、向き合いを大事にしつつ、季節を感じられる行事を増やしたり、寮周辺の環境美化（特に花壇づくり）を積極的に行っていきたいと思っています。



★令和6年度採用職員からひとこと★

私は今年度4月から児童自立支援専門員枠で宮城県県庁で採用され、現在さわらび学園で広瀬寮職員として勤務しています。今後さらに子ども達と向き合っていけるように支援員として成長していきたいと考えております。宜しくお願い致します。

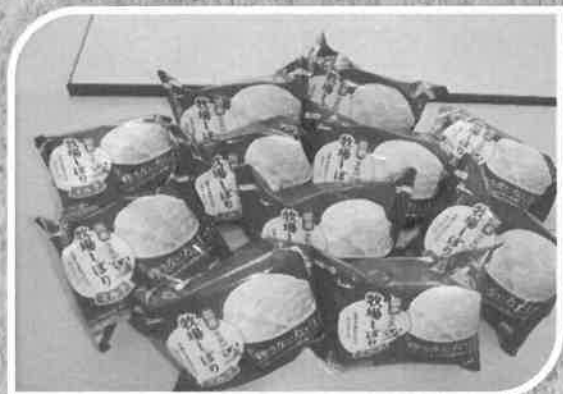
広瀬寮職員 竹川 東吾

さわらび学園で職員になってから約2か月が経過しました。まだまだ不慣れなところばかりですが、周りの職員に支えられながら楽しく仕事する事が出来ています。様々な問題を抱えた児童と関わる中で、自分がこうなりたいという理想となかなか上手くいかない現実の狭間で葛藤する毎日ではありますが、少しずつ児童の成長を促すヒントを模索しながら自身も成長していけるよう精進していきたいと思っています。

青葉寮職員 寒河江 優介

東北アイスクリーム協会様、江崎グリコ株式会社様からアイスクリームのプレゼントをいただきました！！

令和6年5月9日（木）、「アイスクリームの日」として、東北アイスクリーム協会様、江崎グリコ株式会社様から、アイスクリームのプレゼントをいただきました。当日は5月にも関わらず夏のような暑い一日でしたので、児童たちに配布すると美味しそうに食べていました。改めて、感謝申し上げます。



【編集後記】

新年度が始まりました。今年度は春の行事を昨年度よりも増やしましたが、児童たちの生き生きとした様子が伺えました。行事を通して成功体験を積んで欲しいと思っています。

夏になると地区野球大会や野外活動等の大きなイベントがありますが、暑い中で活動するので体調面に気を配りながら取り組んでいきたいです。

今後の行事予定

7/3(水)～ 7/5(金)	東北・北海道地区野球大会
7/25(木)～ 7/26(金)	野外活動
8/8(木)	夏祭り子ども会